

●神奈川県南足柄市「あしがら花紀行事業について」

「あしがら花紀行」は四季折々に咲く花による地域おこし事業です。花を活用して、その地域に人が呼べる観光エリアをつくり、地域経済の振興に発展させることをコンセプトにした地域おこしをめざした事業。平成10年に北西部の千津島地区の「圃場整備事業組合」から起こり、「花の里づくり」構想のもと、平成17年に花や緑、歴史、文化遺産を活用した各団体により「あしがら花紀行ネットワーク」（市内11団体、会員650名）を設立。現在、20団体、3個人、会員1000名が参加している。

事業の効果として、「あしがら花紀行」は足柄地区全体に広がって来ており、早春のあぜ道や酔芙蓉農道などに、バスや乗用車がみられるようになった。急遽、農家の方々に農産物の出店を開いたり、駐車場案内をしたり、自主的に対応する地区も見られるようになった。市の知名度、高感度を高めるためにも大きな効果があった。

●神奈川県南足柄市「市民農業制度事業について」

平成20年度に耕作放棄地全体調査を実施したところ、面積は62haにもおよんだ。その遊休農地の解消と食糧自給率の向上を目的に、新たな農業参入システムを導入して、農業の担い手の確保と市民の農業への理解をめざして三つの柱を立て農業の振興を目指すものです。

- (1) 新規農業を推進
- (2) 市民農業者の利用の推進（農地の貸し借り制度）
- (3) レクリエーション的な利用を促進

●神奈川県小田原市「神奈川県産業技術センター工芸技術所について」

○事業内容

- (1) ものづくり支援（技術支援、依頼加工・製作・試験（有料）、設備機器の利用（有料）、受託研究（有料）、企業訪問による技術支援）
- (2) 研究開発
- (3) 人材育成
- (4) 技術情報、連携・交流（セミナー等の開催、刊行物の発行、工芸品の展示・図書の閲覧）

◎教育民生常任委員会 平成25年7月10日（水）～7月12日（金）

●北海道石狩市「認知症予防事業について」

平成15年に合併した地区では、高齢化率が非常に高く、高齢者がいきいきと暮らせるまちづくりを進める必要があった。石狩市は、4年前から市内2ヶ所で「くもん学習療法」を取り入れた「脳の健康教室」を行なっている。脳の健康教室事業の前は、MCI（軽度認知症）が3割だったが、半年間、週1回（30分）の健康教室で95%が正常値に戻った例がある。市の負担として、介護予防事業の「地域支援事業」の予算を活用している。宮城県石巻市の一部も含め、現在全国で約500の教室が行われている。

効果として、平均で軽度認知症が約90%改善することが確認されており、これと併せて、高齢者の方々が教室に通うことにより、様々な方々との対話により、社会との繋がりを維持することが可能になる。

●北海道石狩市「特色のある教育について」

文部科学省、総務省のモデル事業を活用し、各教員に校務用パソコンの貸与を始め、児童1人に1台のタブレットパソコンを配備し、全ての普通教室に電子黒板を配備及び無線LANの整備に加え、実物投影機（書画カメラ）を整備。

実際に電子黒板を使用しての算数の授業を視察して、どの子がどの過程でつまづいているのか的確に把握でき、感激、納得させられた。年間300くらいの視察があるという。義務教育時から電子機器を活用することで、「情報リテラシー」とともに「情報モラル」を身につけてもらうことが重要である。予算の見地からは、石狩市内20校で約30億円を要するとのことである。

●北海道小樽市「小樽・北しりべし後見施策について」

高齢化率30%を超え、認知症高齢者、知的・精神障害者の安心安全な生活を確保する仕組みづくりが必要との認識のもと、専門家はじめ市民有志により検討委員会を立ち上げ、国の定住圏構想の活用もあり、小樽市と北しりべし（後志）圏5町村参加の社会福祉協議会に成年後見センターが設立された。

センターは、市中心部（空き店舗）に設置し、地域包括支援センターと併設している。受任数は、22年度末19件、23年度末31件、24年度末31件あった。

センターができたことによって、申立件数が0だったものが、一気に相談や受任が増えた。潜在的な需要があったものと思われる。高齢化が進展する中で、市民後見人の養成、スキルの向上を図る必要がある。

●北海道千歳市「千歳市防災学習施設（センター）『そなえーる』について」

自衛隊敷地に三方囲まれた立地条件に加え、住民要望や住民懇話会での議論を踏まえて防災学習交流施設の整備を行うことになった。施設概要は、総面積8.4haでA・B・Cの3つのゾーンからなっており、施設利用状況は平均年5万人の利用がある。

千歳市は「防災マスターズ」を結成しており、市が補助を出し、市民協働まちづくりで「防災講座」を開いている。施設は、おもに小・中学校、高校、専門学校が利用している。河川訓練広場では、土嚢のつくり方、サバイバル訓練場では、「ロープの結び方、火起こし」が体験出来る。防災フェスティバル、夏休み防災教室、AED、消防の展示、水消火器の使用訓練などに使われている。総合的に見て、市民の防災意識向上に大きな役割を果たしている施設である。